

第2分科会 研究課題「子どもの発達に関する課題」

研究主題「未来を拓く 心豊かでたくましい生徒を育成するために教頭としてどう関わればよいか」

～「地域とともにある学校づくり」を通して～

東児湯支会 川南町立国光原中学校 森 英雄

1 主題設定の理由

川南町では、川南町教育大綱において、「ふるさと川南を愛し 未来を拓く 心豊かでたくましい 川南の人づくり」を目標に掲げ、教育環境の整備・充実が進められている。特に、「町民総ぐるみによる教育の推進」に力を入れており、学校や家庭、地域及び企業、文化団体等が一体となって取り組む教育が推進されている。その一環として、地域学校協働活動推進員が各中学校区に1名、計2名配置されており、町内の全小・中学校において、「地域学校協働本部事業」との連携・協働による「地域とともにある学校づくり」に取り組んでいる。

また、川南町内には高等学校がないため、中学校卒業後の進学先は高鍋町や西都市、宮崎市、日向市、延岡市と様々である。小中学校9年間を通してキャリア教育をしっかり行うことは子どもの発達において重要なことであり、本町においては最重要課題ともいえる。

そこで、「地域とともにある学校づくり」を進めていく中で、教頭としてどのような役割を果たせばよいかを明らかにすることで、キャリア教育を充実させることができれば、子どもたちのキャリア発達を促し、心豊かでたくましい生徒を育成することに繋がると考え、本主題を設定した。

2 研究のねらい

本町各中学校の「地域とともにある学校づくり」を進めていくにあたって、教頭としてどのように関わっていけばよいかを明らかにすることで、本町の教育目標の具現化を図る。

3 研究の概要と成果

(1) これまでの実践事例の概要

① 職業講話

2年生の職場体験前日に、地域の方を講師として招聘し、職業講話を行っている。昨年は商工会会長の全体講話の後に、ブース型で6名の講師がそれぞれの職業について講話を行い、挨拶の仕方やコミュニケーションのとり方等についても指導を受けた。今年参加者を1年生まで広げたので、ブース学習の講師を9名に増やし実施した。この学習を通して、働くことに向き合い、

職場体験でもしっかり学ぶことができた。

② ふるさと学習

1年生の総合的な学習の時間では、「ふるさとを知ろう」というテーマ学習を行っている。学芸員より川南町の歴史について、商工会会長より商工会の取組やまちづくりや地域への貢献活動等について講話をしていただいた。テーマに応じて、まちづくり課の方やアカウミガメの保護活動をしている方に話を聞いたり、川南湿原に行き保護活動の様子を見学したりした。学習の最後には発表会を実施し、生徒自らプレゼンテーションにまとめて発表することができた。

③ 地域参画型面接指導

3年生の総合的な学習の時間では、地域の方10数名に協力を依頼し、模擬面接指導を行っている。この学習では、自分のキャリアデザインを練り上げ、自分の考えを面接官にしっかり伝えられるようになることを目指している。初めは自分の考えをうまく伝えられないこともあったが、面接官の適切なアドバイスにより自分の考えを相手に伝えられるようになっていった。

④ 農業体験

県立農業大学校と連携し、毎年3年生希望者を対象として農業体験を行っている。教育課程外の活動ではあるが、毎年多くの生徒が参加し、サツマイモやカボチャの植え付け・収穫体験を行っている。カボチャを種から育てる活動や、収穫後のサツマイモを軽トラ市で販売する活動等を通して、地域の産業について多くの学びがあった。

(2) 本年度新規で行った事例の概要

① 地域の清掃活動

本年度の第1回学校運営協議会で、「持続可能な川南づくり 中学生にできること」について話し合った。それをもとにして、地域の方と共に8地区に分かれて行う清掃活動を企画した。第2回学校運営協議会で活動場所や活動内容等について協議した。その後、各地区生徒が話し合い、清掃場所を決め、夏季休業中（平日）の午前中に実施した。

学校運営協議会に生徒会代表が参加して

いるので、「中学生にできること」という視点を入れ、学校運営協議会での話し合いを生かして企画した活動である。

② 伊倉浜清掃

昨年度のふるさと学習の際にアカウミガメの保護活動について学習したことが話題となり、学校運営協議会の中で伊倉浜の清掃活動を企画・立案していた。その後、川南町社会福祉協議会がボランティアを募り伊倉浜清掃を計画していることが分かった。そこで、生徒に参加を呼び掛けたところ、十数名がボランティアに参加し、ふるさと学習で学んだことを生かして、中学生にできることを実践した。

(3) 実践事例における教頭の役割

① 職業講話

- 学年主任との打合せ（講師を依頼する職種の検討として、職場体験ができない職種の方を探し、できるだけ様々な職業について学ぶことができるよう配慮した。）
- 講師依頼（交渉、依頼文書作成等）
- 企画・立案についての助言（学習形態や時間配分等）

- 報道機関への連絡と対応
- 講師の受入と会場までの誘導（当日）

② ふるさと学習

- 講師依頼文書の校正
- 校外活動時の移動方法や安全確保、時間配分等についての助言
- 校外活動届けの作成・提出
- 講師の受入と会場までの誘導（当日）

③ 地域参画型面接指導

- 学年主任との打合せ（講師依頼、日程等）
- 講師依頼文書の校正
- 講師依頼の趣旨説明（事前説明会）
- 講師の受入と会場までの誘導（当日）
- 参加生徒名簿の受け渡しと回収（当日）
- 模擬面接結果や課題等の学年への引継ぎ（当日）

④ 農業体験

- 体験活動に関する企画・立案
- 学年主任との打合せ、農大担当者との連絡調整（活動内容・日程）
- カボチャ苗育成の見届け
- 体験活動に向けた生徒への事前指導
- サツマイモ販売に関する商工会担当者

との打合せ、軽トラ市への参加申込

- サツマイモ販売に関する事前準備、生徒への事前指導、当日の指導、用具の返却等

- 報道機関への連絡と対応
- 会計報告

⑤ 地域の清掃活動

- 清掃活動に関する企画・立案
- 地域住民への連絡方法検討と案内文書作成、配付依頼（自治公民館）
- ごみの処理方法検討と協力依頼、活動実施計画（報告）書の作成・提出（環境水道課）
- 雨天中止の場合の連絡方法検討と協力依頼（まちづくり課、教育課）
- 報道機関への連絡と対応

⑥ 伊倉浜清掃

- 社会福祉協議会との打合せ（日程、ボランティア募集内容の確認等）
- ボランティアの募集（学年職員に依頼）
- 生徒ボランティアの集約と参加申込
- 生徒ボランティアへの事前指導
- 現地での指導

(4) 研究の成果

① 「地域とともにある学校づくり」は、一朝一夕にできるものではないが、川南町には学校が依頼すれば協力を惜しまない体制があることが確認できた。地域に協力依頼をする際に、教頭が学年主任と役割分担・連携協力して、活動のねらい等をしっかり伝えていけば、生徒のキャリア発達を促す学習が展開可能であることが分かった。

② 地域と連携する際に相談相手が不明なことがあったが、役場や自治公民館長等に相談すると必ず解決策を導くことができた。生徒の学びを保証するためには、何をしたいのかを明確にして適切な関係機関と連携することが大切であると分かった。

③ 伊倉浜清掃の事例のように、必要な情報をキャッチし、しっかり繋ぐことができれば、生徒の学ぶ機会を広げられることが分かった。

4 今後の課題

(1) 生徒がキャリアデザインを実現するためには、学力の保証も大切である。学力向上に向

けた取組を今まで以上に進めていくために、
教頭としてどのように関わっていくことができ
るか研究していくことが必要である。

- (2) 学校として地域に貢献する活動を行う際に
勤務時間との兼ね合いが難しい。地域が学校
に協力しやすく、働き方改革に逆行しない取
組にするための工夫が必要である。